

令和7年度 中学生の「税についての作文」

緑 税 務 署 長 賞



時代を映す鏡としての税

横浜市立鴨志田中学校 第三学年 島原 未来

今年の夏休み、家族とスーパー銭湯に行ったときに、入湯税という見慣れない文字を見つけた。大人は一律百五十円と書いてあり、入館料とは別に支払う仕組みになっていた。普段から消費税や所得税という言葉はよく耳にするが入湯税というものがあるとは知らなかった。調べてみると温泉地の環境保護や観光施設の整備に使われていることが分かった。お風呂好きの日本らしい税だと感じ、興味が広がった。

さらに歴史を調べると、「ちよっと変わった税」にも出会った。ヨーロッパには「ヒゲ税」、アイルランドには「ポテトチップス税」、日本は江戸時代に「醤油税」があった。一見おかしい税金に思えるがその背景には当時の社会や文化が反映されている。税とお金を集めるだけでなく、その時代の政治家が描いた理想の社会像を示す「鏡」だと気づいた。

そこで私は考えた。今の日本で新しい税を導入できるとしたら何がよいか。現代社会ではスマートフォンが欠かせないが、依存や健康被害の問題もある。私自身も気づくとSNSを見続けてしまうことがある。だからこそ「デジタル時間税」を考えてみたい。一日一定時間を超えてオンラインゲームやSNSを利用すると追加課税され、その税収を教育支援や地域活動に使うのだ。単なる罰金ではなく、社会全体の健康増進につながる

形にできると思う。

もちろん実際には、利用時間を誰がどう記録するかなど課題は多い。それでも「もしも」の発想として考えると、今の生活や社会の姿が税を通して浮かび上がる。昔の「ひげ税」や「醤油税」が時代の価値観を映していたように、私が提案した「デジタル時間税」も現代らしいと言えると思う。税という取られる、払うだけのものと思いがちだがその使い道を知り、自分ならどんな社会を実現したいかを考えると、未来をつくるための道具のようだ。今回の調べを通して、税は国のためだけではなく、暮らしを守り豊かにするために存在していることも分かった。私たちが安心して生活できる道路や公共施設、福祉や医療も税があるから成り立っている。当たり前だと思っている日常が多くの人々の税金によって守られていることを知った今は、税は取られるものではなく「未来への投資」と捉えることが大切だと思う。

夏休みに銭湯で入湯税を知った小さな体験は、私にとって税を身近に感じるきっかけとなった。これから大人になり、働いて税を納める立場になった時、ただ義務として払うのではなく社会をよりよくするための参加の一つの形であると感じたい。

